

第12回 CIEC サタデーカフェ

開催概要

開催日:2022年5月21日(土)20:00~21:00

会場:Zoom によるオンライン開催

プログラム

20:00 - 20:15 【 話題提供 】

スピーカー:大橋剛氏 (札幌市立大谷地小学校)

テーマ:「GIGA スクール構想の現場より/GIGA スクール構想の現状と課題・今後について」

20:15 - 21:00 【 参加者とのフリーディスカッション 】



第12回 CIEC サタデーカフェは「GIGA スクール構想の現場より/GIGA スクール構想の現状と課題・今後について」をテーマに札幌市立大谷地小学校の大橋剛氏による話題提供となりました。大谷地小学校では、1人1台環境になる以前は、タブレットが1台もなく、起動に時間のかかる PC を使用していたという、いわゆる ICT 環境については脆弱そのものだったそうです。そこへ急激な変化が訪れました。札幌市立の学校では一斉に Chromebook の導入があり、基本的に Google Workspace を利用しています。子どもたちは各学年に応じた活動でこれらの機器を利用して、1年生ではまずログインを覚えるところから始まり、2年生では学習規律の徹底を行いながら、3年生ではすでにプログラミングの学習を行っています。また4年生ではテキストマイニングツールを使い、5年生では雲の動きをカメラで記録し、レポートをまとめる作業に使用しています。さらに、6年生では卒業文集作りやオンラインでの保護者修学旅行説明会を行ったそうです。Google サービスの利用では、Google Meet や Google Classroom を活用し、Jamboard を使った協働学習も行っています。校内では GIGA 校内成果発表会やオンライン参観・懇談も行い、日常的に持ち帰りを推奨し、ほぼ全家庭で Wi-Fi 環境が整っているそうです。その甲斐もあって、児童の96%、保護者の85%が1人1台環境であることを実感しており、あらゆる教育活動の基盤になっています。また教員研修も充実し、管理職も積極的に利用している姿が見られるそうです。導入当初は課題も多く、依然として、地域間・学校間などの格差はあるようですが、個人間格差については縮まっていると感じられるらしく、インターネットの回線状況も安定してきていると大橋氏から報告がありました。今後は健康面の問題も出てきそうですが、現在のところ大きな問題は生じていないようです。さらに予想以上に端末の故障も少ないようで、1人1人の児童が Chromebook を大切に扱っていることが伺えます。管理者の業務としては、アカウントの年度更新が煩わしく、業務量もかなり大きいようです。最後に、これらのまとめとして、「『学び』は変わったのか?」、「学びの質と学びの内容の転換ははかれたのか?」という問題提起がなされ、その上で、「歴史から学ぶ限り、GIGA スクール構想は成功する。」という言葉で締めくくられました。

この後の参加者とのディスカッションでは、まず小学校低学年での有効性について質問があり、音楽での Chrome Music lab の利用や Viscuit (ビスケット) でのプログラミングなどを通じて、子どもたちは想像以上にすぐんできているという紹介がありました。また小中連携についての質問では、中学校区(近隣の小学校3~4校+中学校1校)において、GIGA スクール構想の話題も含め、密に連携を行っているそうです。各小学校から集まって来た中学生は、互いに身につけたスキルも異なり、そこで教え合いが起こっているそうです。さらに進学時のアカウントの継続性についての質問もありましたが、これについてはまだできておらず、今後の大きな課題だということでした。最後に、小中高大の連携や接続についての話題となり、質や内容の転換を行っていくためにも、各校種が互いに理解しながら繋がり、体系的に教育活動に取り組めるシステム作りが大切であるというまとめで終了しました。

13名の参加で、少人数ではありましたが、小学校現場での実情をお聞きできる貴重な機会となりました。今回の話題提供者である大橋氏を始め、ご参加頂いた方々にこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。(文責: 平田義隆)

